

「今」

私たちのホームで白寿の祝いをした折、祝福された羽田野モモエさんのお礼の言葉。「私は昭和五十九年にここに入居し、歌作りを覚え、もう二百首以上になっていきます。今日の一句、〃人生は今日の今より外ぞなし〃夜中に夢が作ったのです。まことに本当だと今も思っています。任運荘での幸せの今、成仏したいと思っています」。今日の今。今が一切。何と深い哲理をきっぱりと、あなたは語られることだろう。

ひとは老いて病床に横たわっていても漫然と過ごしてはいない。生きてきた長い道程、その意味をくり返し自問する。死も近い、独り素手でそれをどう迎えるか、夜のしじまに恐怖し苦闘を続ける。それがひとの晩年である。ひとは最後になっても主体的存在だから。

羽田野さんは思いを「今」に凝集させた。ここには過去も未来もない。あるのはただ「今」だけ。今日の自分だけ。こう自分に決断する時、安心決定する。だから、「今、成仏したい」である。絶対の生でもある。

昭和最高の傑僧沢木興道はそのような悟道ごどうを「自分する」と表現した。明治の名作『銀の匙さじ』で、老いた伯母の言葉は清澄せいじやうである。「この年まで生きたでいつおいとましてもええとおもって、いつも寝る前におひざもとへお招きにあずかるようにお願い申しては寝るが…朝目がさめるとさいが おお おお また命があつたわやと思つても…」。羽田野さんと同じくこの伯母にも未来は今なのである。「今」は祈りである。祈りは絶対者にささげられる。だから直ちに永遠と結び合う。

(一九九一年六月六日)